教育の現場を知る

伝統あるCUCの教員養成

千葉商科大学商経学部 准教授
近藤　真唯
KONDO Masatada

プロフィール
2006年4月　静岡県公立高等学校　教諭
2013年4月　千葉商科大学商経学部　専任講師
2017年4月　千葉商科大学商経学部　准教授

【…1．我が国の高校教育現場および教員養成の現状…】

①高校教育現場の現状

平成最後の年を迎える中、我が国は科学技術の進歩や情報化、グローバル化、少子高齢化、知識基盤社会の到来など急速に社会が変化している。特に少子化については教育現場に大きく影響を与えており、1989年度（平成元年度）で11,878学科5,637,947名であった高等学校の学科数及び生徒数だが、2018年度（平成30年度）では9,300学科3,226,017名となっており、平成の世だけでそれぞれ21.7%、42.8%減少している。本学教職課程において多くの教員を輩出している教科商業科だが、この商業科では更にその影響が色濃く現れている。商業に関する学科数及び生徒数は1,524学科588,741名から969学科190,675名とそれぞれ36.4%、67.6%減少しており、高等学校全体と比較しても突出した数値であることがわかる。(図1)事実、普通科の学科数及び生徒数の減少率は16.1%、43.5%、農業に関する学科数及び生徒数は42.6%、49.1%、工業は31.6%、49.7%となっており、特に商業に関する生徒数が激減していることは明らかである。

②教員養成の現状

生徒数の減少は教員の採用数にも大きく影響を与えている。高等学校教員数を比較すると、1990年に286,006名だった教員数は、2018年には18.2%減となる233,925名となっており、その影響の大きさが伺える。ただし、1951年から1958年に生まれた世代、いわゆる「ポスト団塊世代」の退職時期と重なったこと

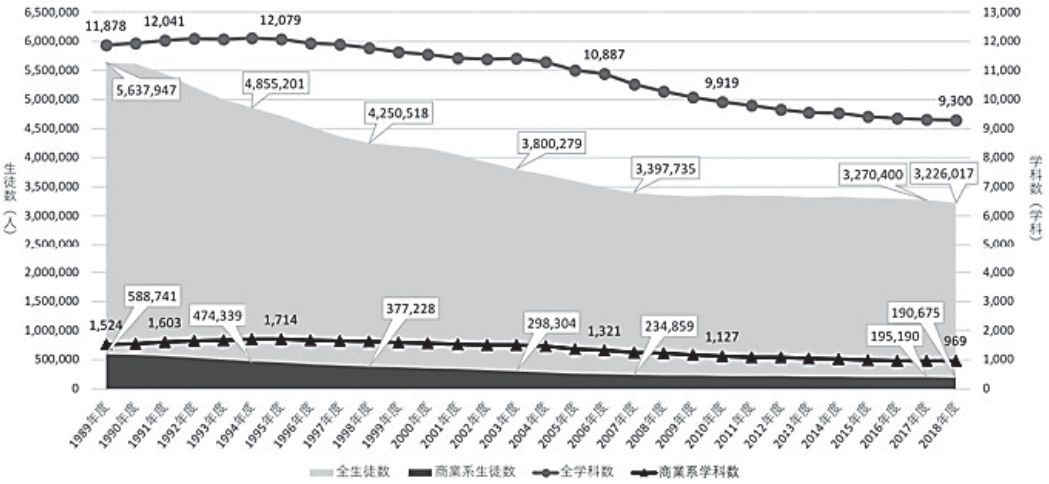


図1　高等学校における商業に関する学科数および生徒数の推移
出典：政府統計の総合窓口（e-Stat）、文部科学省「学校基本調査」、最終閲覧日2019年1月13日（1989～2018年度データを基に筆者が作成）

もあり、この10年ほどの採用者数は従前より増加傾向にあり、教員採用選考試験の競争率も減少傾向にある。（図2）また、「官民反比例の法則」とも呼ばれるように、民間企業の採用が好調な場合は教員採用選考試験の競争率は減少する傾向にあり、大学生の「売り手市場」と呼ばれる近年の状況は、教員志望者数に大きく影響を与えている。正規の教員には比較的採用されやすくなっているものの、講師（常勤または非常勤）の成り手がいない。これが「教員が不足している」と言われる所以である。

一方で、教員が生徒や保護者、社会等から求められるものは年々大きくなっている。中央教育審議会から優れた教員の条件として、教職に対する強い情熱、教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力が求められているだけでなく、実際の教育現場では授業の実施とその準備、学級運営、生徒指導、進路指導、校務分掌、部活動、保護者対応など多岐に渡る仕事を全うしなければならい。そのため、教員養成においては「即戦力」となる、実践的指導力のある教員の輩出が急務となっている。

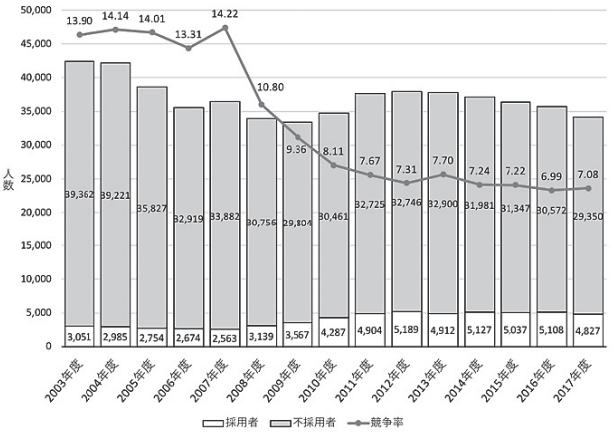


図2　公立学校教員採用選考試験の実施状況（高等学校のみ）
出典：文部科学省、「公立学校教員採用選考試験の実施状況」、最終閲覧日2019年1月13日、（2003～2017年度データを基に筆者が作成）

【…2．本学における教職課程の実績…】

①卒業生教員数

これまで本学では、商業科、外国語科（英語）、情報科、公民科[注]の教員を多数輩出してきた。特に商業科教員については毎年10名前後を輩出しており、本学卒業生教員の研究会である「千葉商科大学教育研究会」に400名以上登録していることから、未登録者数も含めた現役教員は500名前後に上ると予測されている。全国で約9,600名の教員が教科商業科の免許状（専修または1種）を所持していることから、約5%が本学卒業生教員であり、全国的に見ても大きな割合を占めていることがわかる。また、本学卒業後に科目履修生等を経て小学校教員免許を取得し、小学校で教鞭を取るものも一定数存在する。

②教員採用選考試験合格者数の推移

教員採用選考試験における本学関係者のトレンドについて、ここ数年で著しく変化が起きている。その変化とは、次の通りである。（図3）

- 1次選考合格者が、大学4年生、卒業後3年以内の講師を中心に20名前後に増加。
- 2次選考合格者が10人以上に増加。
- 大学4年生の2次選考合格者をコンスタントに輩出。
- 私学の教員採用選考試験を受験、合格する大学4年生をコンスタントに輩出。（図3には未記載）

全国の2018年度商業科教員採用者172名（2018年度高等学校産業教育担当指導主事連絡協議会聴取資料より）のうち11名（6.4%）が本学関係者だが、そのうち7名が卒業3年以内の講師（卒業1年目：4名、2年目：2名、3年目：1名）で占められていた。「卒業1年目の講師」というカテゴリーが最も合格者が多いという特徴が出ているが、これは偶然ではなく、本学教員養成システムが大きく変わった学年（2012年度入学生）であることが大きく関係していると考えられる。事実、この学年は大学4年生時に6名が1次試験に合格、うち3名が2次試験に合格している。

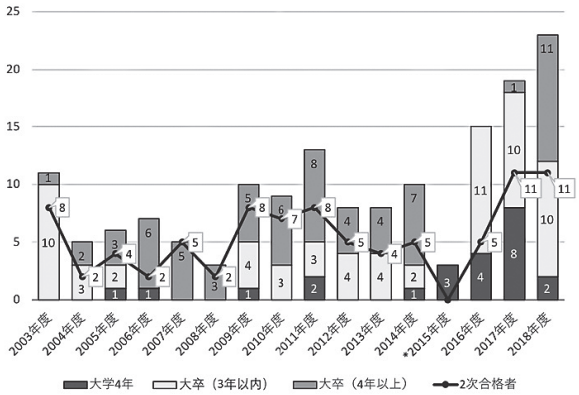


図3　公立学校教員採用選考試験における本学の実績
（大学生および卒業生への聞き取り調査結果等を基に筆者が作成）
*この年度は卒業生への聞き取り調査が未実施

【…3．CUCの教員養成システム…】

では、どのようなシステムが教職課程にて実施されたことで、学生は学力だけでなく実践的指導力も身につけ、採用を掴み取っているのか。実際に行われている6つの教職イベントを紹介する。

①1年生向け教職ガイダンス（参加必須）

入学したばかりの大学1年生向けに行われるイベントで、4月と9月に実施している。本学教職課程のシステムやこれからのスケジュールなど、教職課程の基礎基本を指導しており、教職課程に登録するためにも参加が義務付けられている。今年からは12月にも開催し、教職課程が本格化する2年生以降に向けて先輩である3・4年生から個別でアドバイスを行う内容となっている。

②教職研究会（参加必須）

毎年11月下旬から12月上旬に開催される2～4年生を対象とする研究会で、教育実習および教員採用選考試験に関する情報を共有することを目的とする。その年の教員採用選考試験に合格した4年生や卒業3年以内の講師を中心にワールド・カフェ形式で話し合いを進めていく。

③教員採用選考試験対策講座（参加必須）

2月に行われるアクティブ・ラーニング形式の対策講座と6月下旬に行わる講義形式の直前対策講座がある。前者は、3年生対象に実施されるグループ活動で、与えられた教職に関するテーマについて研究を行い、他の3年生に対して授業を実施するというものである。「教えることで学ぶ」を実践し、教員採用選考試験に関する知識を深めていく。後者は、4年生対象に実施される講義で、教員採用選考試験の直前に実施される。一般教養、教職教養、専門教養（商業）に関する講座を10日間（1日2講座）実施し、受験生である4年生の知識の底上げを図り、教員採用選考試験での高得点を目指す。

④教職インターンシップ（参加任意）

2014年度からスタートしたイベントで、3・4年生対象に実施している。教職インターンシップは、他大学などでは学校インターンシップやスクールインターンシップなどといった名称で行われており、長期間にわたり継続的に学校現場で体験活動を実施し、学問知と実践知の往還による「実践的指導力」の育成を目指すものである。本学では10～11月（2ヶ月間）で船橋市立船橋高等学校（2014年度～、商業）、東京都立第三商業高等学校（2018年度～、商業・外国語（英語））の2ヶ所で実施している。

⑤教職勉強会（参加任意）

2014年度からスタートした勉強会で、3・4年生対象に、商業科に限り、実施している。1回3時間の講座を週2～3日で実施しており、教員採用選考試験やITパスポート試験、全国商業高等学校協会主催検定等の過去問題を活用した演習・解説や授業実践などを行い、採用試験に合格するための「知識・技術」の伝達だけでなく、「実践的指導力」の育成も行っている。近年の採用試験合格者のほとんどが、この会で学んだ者たちである。

⑥千葉商科大学教育研究会（参加任意）

本学卒業生教員のみが入会できる研究会で、年１回、夏季に会員対象の大会を開催し、教育に関する新たな学びを会得するための講演や発表等を実施している。卒業生教員には校長など管理職に就かれている方も多く、研究会を通じて世代を超えた「つながり」を持つことで、教員採用選考試験だけでなく、今後の教員人生におけるさまざまな恩恵を享受することができる。

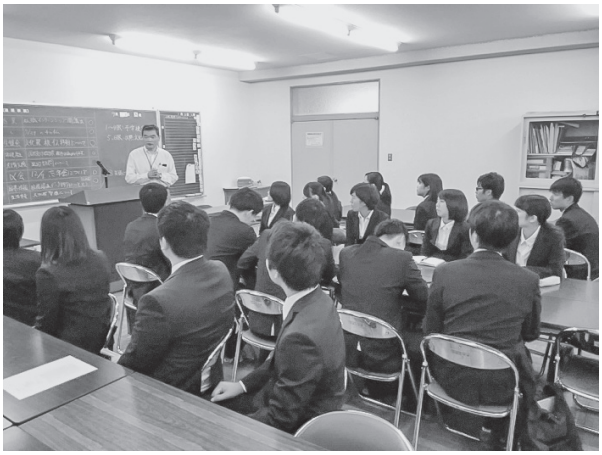


写真　船橋市立船橋高等学校「教職インターンシップ」開講式の様子

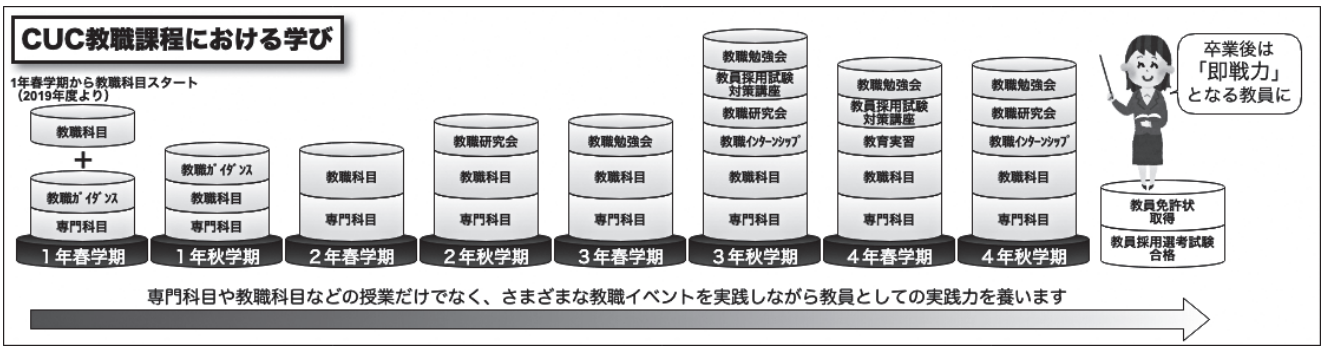
【…４．今後の展望…】

即戦力となる、実践的指導力を持つ教員を育成するためのシステムを構築し、若い教員を輩出しているが、大きな課題も抱えている。その課題とは、学生たちの「教育に対する情熱」だけは生み出すことができないこと、である。情熱を「炎」であらわすならば、この「炎」を大きくするための薪、「炎」を他の場所に移動させるためのトーチといった道具やその使用方法などを教員は持ち合わせているが、そもそも「炎」がなければ道具も方法も意味をなさなくなってしまう。

その課題を解決するため、本学教職課程では来年度からシステムを大きく変更する予定となっている。これまでは１年生秋学期からスタートしていた教職課程を、春学期からに前倒しすることで、入学時に持っていた情熱が教職課程開始までの半年間で潰えてしまうことを防ぐねらいがある。

今後も学生たちの「教員になりたい」という純真な想いを実現させるため、学生一人ひとりをさまざまな視点から理解し、教職課程教職員一同でサポートしていく所存である。

注　教科公民科の教員免許状については、2019 年度をもって認可取り下げの予定である。



参考文献

- 田島充士、中村直人、溝上慎一、森下覚（2016）『学校インターンシップの科学』ナカニシヤ出版
- 文部科学省『公立学校教員採用選考試験の実施状況』http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/senkou/1243159.htm, accessed January 14, 2019.
- 文部科学省『文部科学統計要覧・文部統計要覧』http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/002/002b/koumoku.html, accessed January 14, 2019.
- 文部科学省『公立学校教員採用選考試験の実施状況』http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/senkou/1243159.htm, accessed January 14, 2019.
- 文部科学省『新しい時代の義務教育を創造する（答申）』http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1212703.htm, accessed January 14, 2019.